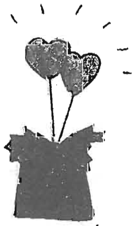
井戸端だより

第 88 号
発行日： 2014.12.22
発行： くらしの学習会

あっという間に1年が過ぎ、もう今年もあと残りわずかとなりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

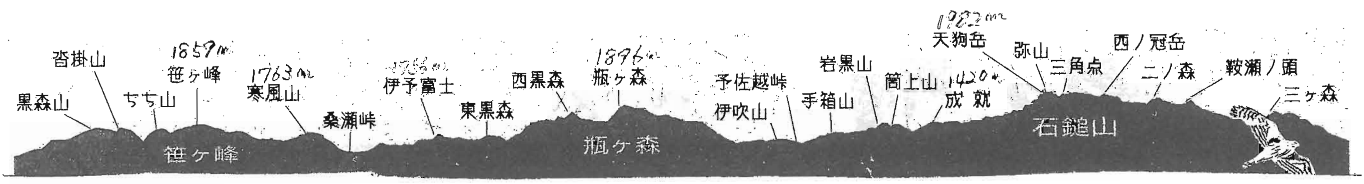
1年が早く過ぎると感じるのは年をとったせいだとあるテレビ番組で言っていました。それは子どもの時の様なドキドキワクワク感がなくなるからだと結論付けていましたが、未だワクワク感もドキドキ感も、さらにいえばハラハラ感もなくなってはいないのに1年が早く感じられるようになってきたのはなぜなのでしょうか。年末の忙しい時期での戦略的衆議院議員選挙、52%という戦後最低の投票率による選挙結果で、政府与党の暴走は加速するのでしょうか。外交、防衛、経済、財政、教育、医療、福祉、エネルギーなどの政策へのハラハラ感は一層増すばかりです。傍観者ではなく、常に当事者意識を持ち続けたいものです。

さて、第 88 号会報をお届けします。皆さまの生活のスパイスになれば幸いです。どうぞ良いお年をお迎えください。



目　次

- 10・11・12 月例会報告 ・・・・・P.2～7
- 姫路城とジャコウアゲハ ・・・・・P.8～9
- 京都の正月 ・・・・・P.10
- いい人生をおくるために ・・・・・P.11
- 我が家のノーベル賞は孫M ・・・・・P.12～13
- 冬の短歌十首 ・・・・・P.13
- 雑感 ・・・・・P.14～19
- 忘年会に思う ・・・・・P.19
- お知らせ・編集後記 ・・・・・P.20



10月例会報告

10月29日（水）西条市にある「石鎚ふれあいの里」へ活動会員４名で秋晴れの中8:30分中央公民館を出発。この日は10時からガイドさんと大保木の小道を歩き、昼食の後、こんにゃくづくり体験を予定。Ｈさんの運転で国道11号を走り、石鎚ロープウェイ方面へ右折黒瀬ダムに突き当たったら右折。見慣れた重信川とは色合いが違う加茂川特有の青石を目にしながら10分程で目的地に到着。ＮＰＯ法人「西条自然学校」のガイドさんに出迎えられ歩きのコースについて相談。ここの地区には大イチョウが二ヶ所ありどちらか選択できるコースを準備してくれていたので、私自身膝が悪いためきつい歩きは無理な事を話し、お堂のある短いコースを選び出発することに。

出発して間もない場所にある榎の葉を拾い、種を遠くまで飛ばすため葉と共に散っていくとの話しに早速落葉を採取、細い茎と葉の際に２㎜程のハート型の種が。以前参加したお散歩会の時、アオギリの種は一枚の葉と茎の根元に種を付けクルクルと回るように散っていく様を見たことを思い出し、子孫を残すための技に早くも心を掴まれた。車道から人一人歩ける程度の住民が生活道として使われている小道は、木や木の根を足掛かりに軽い上り坂。（こうした小道は一年も人が歩かないと無くなってしまうそうだ）運動不足が身に染みる、車道に出てホッとする。杉と檜が隣り合わせに植わっている場所ではそれぞれの見極め方を聞く。葉の形状・樹皮の形状・種の大きさと形（檜は１㎝程の球体、杉は２㎝程の尖った形）うっそうと木々に覆われた道から、又、軽い上り坂を進む。道すがらには住む人が居なくなった住宅や住民が植えたであろうお茶の木があちらこちらで見られる。お茶（つばき科の暖地性常緑低木）の実やはじけた殻をいくつか採取（持ち帰った次の朝、紙の上に乗せておいた実がはじけお行儀良く種が殻に収まって居る様はとても可愛いい。クリスマス用のミニリースでも作ってみようかな？）ムカゴも20粒程採取、持ち帰った物は数日後揚げ物をした時に素揚げをし塩を振って美味しく頂いた。お茶繋がりで「石鎚黒茶」の話が出て、古くから作っていた人の高齢化により作るのを止めてしまった。が、現在「天狗黒茶」と名称を変え新たな人達で生産をし希望者に頒布しているそうだ。（「石鎚黒茶」は、徳島県相生町などで作られる「阿波番茶」や高知県大豊町で作られる「碁石茶」と同様の発酵茶で、血圧や腸に良いと見直されている。）

目的地のお堂「治兵衛堂」に到着。百年以上この岬にあるイチョウに守られ様にお堂とお墓がある。「治兵衛堂」とは（西条市環境協会　今どきの西条より）

藩政時代、米の取れない大保木地区では、村民が過酷な年貢米の取り立てに困り果てていた。1664年11月、見兼ねた中奥の庄屋工藤治兵衛が代表となり、年貢を銀で納められるよう西条藩に直訴した。訴えは認められず、家族ら16人が捕らえられ処刑された。しかし、7年後に銀納が認められ、村民は治兵衛への感謝の思いから「銀納義民」と称して、お堂やお墓を造り供養した。340年余り過ぎた今も、治兵衛堂には花が絶えず村民の感謝の気持ちが途切れることはない。毎年８月16日には村の人たちによって供養祭が行われている。※後日、愛媛新聞に「銀納義民」後世へ。冊子・史跡マップ作成、市内配布(2014/11/14)西条・大保木「銀納事件」から350年、義民しのび石碑除幕(2014/11/17)の記事が相次いで掲載されていた。

お堂を下った所で住民の人たちが銀杏拾いをしている。銀杏の実を見た事の無いメンバーもいて、私たちの足元にも落ちていたが果肉でかぶれたり臭いも強いので採取は止めることにした。やっと山の中にも陽射しが差し込んできた。「治兵衛堂」にお参りを済ませ下ることに。雨の後でなくて良かったとガイドさんが上る時に言っていたが、それでも下りの方が膝への負担が大きいので足元に気をつけながらソロリソロリ下っていると、杖を貸して下さりとても助かった。帰り道は車道を多く歩くので土留めのコンクリートに生えている苔や地衣類（菌類の仲間で、必ず藻類と共生している。そして、地衣類を構成している菌と藻は、互いに助け合って生活をしている。菌は藻に安定した住家と水分を与え、藻が光合成で作った栄養（炭水化物）を利用して生活する。）の話し、この辺りに生息する野鳥の話、外来種の野鳥（ソウシチョウ＝外来生物法で特定外来生物に指定され「日本の侵略的外来種ワースト100 」の選定種の１種）が繁殖し在来種が減少しているらしい話しなどしていると、Ｋさんが「クマタカらしき鳥が向かい側の山の稜線を飛んでいた」と。双眼鏡で見つけトンビよりも羽の根元が大きく見えたそうだ。クマタカと言えば私にとっては大洲の山鳥坂のイメージが強いのだが、彼等にとっては一っ飛びで何処へでも行けるのだ。見てみたかったけれど飛び去った後の祭りであった。山の秋は鳥の鳴声が少なくなるそうだが、ジョウビタキの可愛い鳴声が聞こえ目の前の電線に止まっているのを見る事ができた。城町のＯさん宅にもそろそろジョウビタキが姿を見せている頃かな。約２時間、山の小道を歩き体がすっきり軽く感じるのは山の空気のお陰なのか。心地好い時間をすごさせて頂きありがとうございました。

「石鎚ふれあいの里」へ到着すると、山の幸たっぷりの定食が準備されていた。外のテーブルに用意をしてもらい美味しく頂いた。メニューは（御飯・ミニそば・ふろふき大根ひじき煮・イタドリの煮物・刺身こんにゃく・サツマ芋の甘煮・ゴールデンキウイ）こちらの営業は、年末年始と１・２月は道路凍結のため休業だがその時期以外は基本営業しているそうだ。これから紅葉シーズンになるので賑わうとのこと。食後のコーヒーを飲みな

がら次回の例会の話しをしていると、ガイドさんから西条市で行われる「神社の植物観察&生物多様性ワークショップ」参加者募集中の情報を頂いた。講師は東雲短期大学　松井先生。リーダーのＨさんもフリーの日だったので早速４人申込、他のメンバーの参加については確認の上、申し込むことにした。

１時から「こんにゃくづくり」を体験する。西条自然学校での食物・草木染め担当のスタッフの方に教わる。

①３年もの（こんにゃく芋は春植え秋に堀上げの作業を３回行う事によりやっとこんにゃくを作ることができる。４年目になると花が咲いて芋の寿命がおわってしまう）のこんにゃく芋を前日１日かけしっかり茹でた物を用意してくれていた。

②芋の皮をなでるように手でむき、手で細かく砕く。

③ミキサーに少量の芋と回る程度の水を入れスイッチ。結構長時間回すのでミキサーにとって負担がかかる作業だが、昔は臼と杵ですりつぶしていたそうだ。ミキサーのボトルを逆さにしても落ちなくなるまでしっかりすりつぶす。芋一玉で５～６回に分けて作業をした。

④２台のミキサーですりつぶした物をボールにまとめ、水を加えながらきめ細かくなるまで練り混ぜる。ここでの水の量がこんにゃくの堅さを決める。

⑤凝固剤はスタッフ手作りの木灰の灰汁を使う。以前、こんにゃく作りを体験したことがあったが水酸化カルシウムを使ったので味の違いを楽しみにしたい。灰汁を入れ練り混ぜ始めるとこんにゃく独特の匂いが漂う。しっかり練り込んだらベースの出来上がり。

⑥外のかまどには大きな鉄鍋に薪で沸かした湯が準備されている。こんにゃくベースを手で丸め最後に水を付けて表面をツルツルに仕上げ鉄鍋の中に入れ、約１時間茹でる。薪の煙の匂いやパチパチとする音や暖かさが心地好い。火の番をしながらスタッフの方にこの施設の話を聞いたり見学をしたりしてゆったりとした山の時間を過ごした。

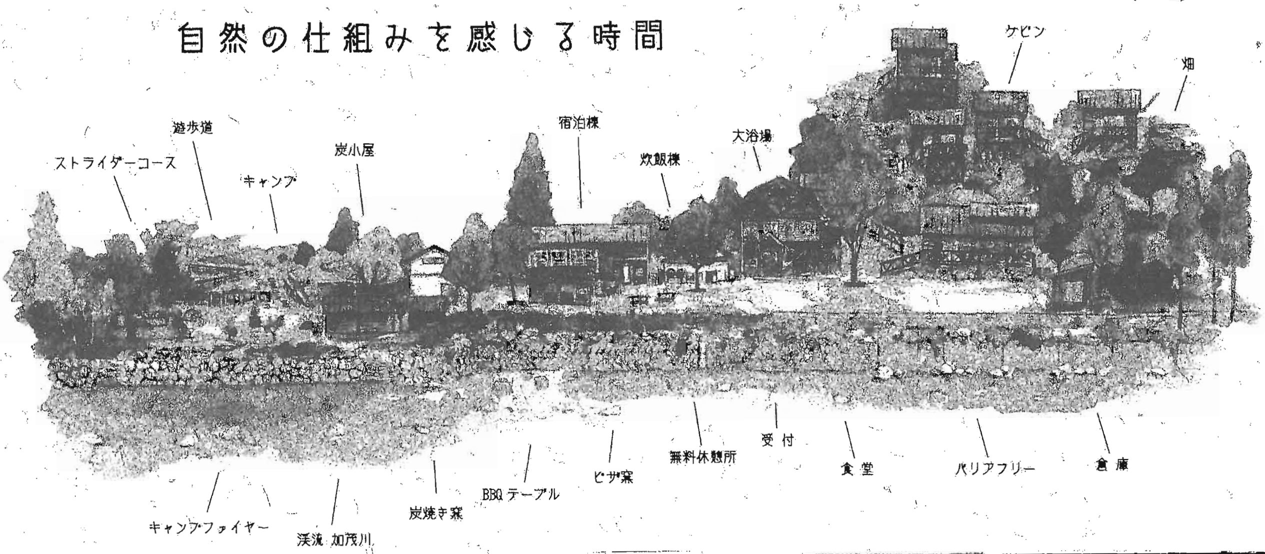
⑦茹で上がったら水で洗い冷やして出来上がり。

このこんにゃくづくりは３日連続予約が入っているそうだ。下準備から後片付けまで手間の掛かる体験をさせて頂きありがとうございました。３時前だというのにもう太陽は山陰に隠れている。山の日の入りは早い。

「石鎚ふれあいの里」を後に、隣にある大保木公民館へ立ち寄り「治兵衛堂」の資料などを頂こうと立ち寄ったのだがどなたも居なかったのでやむなく帰ることにした。Ｈさんがタブレットで調べてくれ、Ｋさんにパソコンで資料を出してもらう事ができたので活動報告に書くことができた。皆さんに感謝！！！帰りの車中では、Ｔさんが最近行ってきたベトナム旅行の話しを楽しんだ。誰かの靴底に付いていたであろうイチョウの実の微かな匂いと出来立てのコンニャクの混在した匂いを感じながら４時すぎ無事東温市に到着。

Hさん運転お疲れ様でした。ご一緒して下さった皆さんありがとうございました。
※灰汁で作ったこんにゃくは、しっかりとした歯応えで独特のこんにゃく臭も少なくてとても美味しかったです。

(A.M)



〒793-0214 愛媛県西条市中奥1号25－1

【車】国道11号線から石鎚ロープウェイ方面へ。
看板を目印にお越しください。ロープウェイ乗り場まで7km
○松山自動車道「いよ西条I.C.」から　約40分（22km）
○松山自動車道「いよ小松I.C.」から　約30分（15km）
○西条市内から　約20分

【バス】伊予西条駅前から、せとうちバス「西之川（ロープウェイ）行き」
「ふれあいの里前」で下車（約45分）

TEL/FAX: 0897-59-0203
(受付時間 9:00 ～ 18:00)
http://oofuki.sunnyday.jp/
詳しくは、ホームページをご覧ください

11月例会報告

11月8日（土）10月の例会繋がりで又も西条市へ。『神社の植物観察会＆生物多様性ワークショップ』に会員5名と会員の友人の6名で参加。2台の車で集合場所である伊曽乃神社（天照大神・武国凝別命を祭った歴史ある神社）の駐車場に到着。10月例会で大保木の小道のガイドをしてくれたＩさんもスタッフとして参加していた。受付をし、13時から西条市担当職員と講師の松井　宏光氏の挨拶の後、早速、観察会スタート。

①松井先生のすぐ後ろに植わっているクスノキ（樟脳やセルロイドの材料）の枝を採り、葉っぱを全員に配る。葉脈の付根に小さい膨らみ（ダニがいるが無害）があり、葉は一年で全て生え変わる。照葉樹の葉は光る。次々特徴を話される。

②イチョウ、葉を日にかざし葉脈は筋状で二股に分かれている（特異な形状）緑（葉緑素）から黄色（カロチノイド）に変わる。

③サザンカの花は花びらで散るが、椿は花毎落ちる。虫が減るこの時期に花を咲かせても蜜を求めて鳥がやってくる。

④御神木クスノキ（推定500年）回りに競争する木がないので、枝を伸ばし、幹を太くし、根を張ることで大きく育つ。

⑤イヌマキ、折れにくいので建物の風よけとして植えられる。

ここから神社の境内へ
⑥クロマツ、葉先に触れるとチクチクするが、⑨アカマツは、柔らかい。
⑦ナギの実は堅く、無黒字（羽子板の羽の黒い物）の代用になる
⑧タチバナ、葉ばかりの幹は、折れてしまい新しい枝が出た物で、古い枝には沢山果実を付けていた。堅く酸っぱい実だが独特な柑橘系の香りがした。
⑧オガタマ、5．6月頃香りの良い花が咲く。天照大神を天の岩戸から誘い出す為に岩戸の前で踊った踊り手が持っていた鈴の形に似ている。

ここから林の中へ。（気温1.5 ℃に低下・照度約1/10に低下）
高・中・低木がバランスよく植わっている林が理想的。ヤブツバキ・テイカカズラ・アラカシなどが植わっている。足元の腐葉土は、上から三層目（葉の形が完全に崩れたもの）以下のものが腐葉土となるそうだ。

林の中は蚊が多く早々と退散。
①サカキ、枝の先がカギ状で葉の根元に角状の針がある。
②ナナメの木、見分けるため葉に火をつけると輪形に燃える。これを死環と呼ぶ。
③ミミズバイ、ミミズが名に付く植物は珍しい・洋梨型の実を付ける。
④ムクの木、葉がザラつき、やすりの代わりになる。

社叢林の植物観察を終え、「生物多様性ワークショップ」を行うため場所を大町公民館へ移動。

まず、スライドによる西条市内にある神社の紹介。愛媛県内には約1200か所の神社があるが、その内の約 120か所が西条市内にあるそうだ。社叢林は「原生植生の保管庫」として貴重な場所とされる。

次に、20倍率の顕微鏡が全員に配られ、先程、伊曽乃神社で採取してきた腐葉土の中にいる土壌動物の検索を行った。私のシャーレの中ではなかなか見つからなかったが、あちらこちらで見つかったらしき声が聞こえる。トビムシらしき生き物がお尻に何かをくっつけ動いているものを発見。社叢林での足元でふかふかした腐葉土の中にどれ程の土壌動物がいたのだろうかと思いをはせる。

次は、いろいろな葉っぱが入った容器が渡された。資料として「里山で出会う木　町で出会う木　身近な樹木の　葉っぱ検索表」を見ながら葉っぱの検索を実際に行った。松井先生曰く、80～90%の確率で木の名前を検索できるそうだ。参加者皆は夢中で検索を楽しんだ。私は面白い葉脈の葉っぱを検索してみた。広葉樹（直立性）→単葉→裂けない→互生→鋸葉なし→葉下面はほぼ無毛→側脈は明瞭→葉は厚くて光沢がある（常緑性）となり検索図23を見て10のアコウにやっとたどり着いた。隣のHさんは幾つも検索を進めていてさすがだと感心しきり。夢中で検索しているとアッという間に予定の時間がきていた。

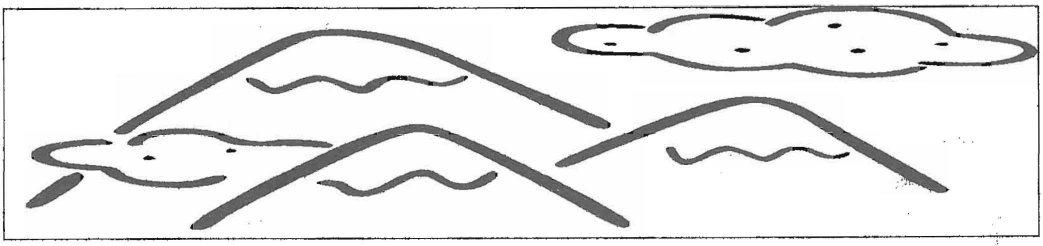
大人になると夢中で何かを体験するというチャンスは少ない。子供に帰った様な貴重な時間を過ごすことができた。

帰り道、チョット寄り道をし次回の予定を決め17時すぎ東温市に無事到着。　(A.M)

12月例会

12月例会は忘年会ということで、12月10日午前10時45分中央公民館に集合し、2台の車で道後夢蔵に向かいました。参加者は6名、ゆったりしたお部屋に通され、くつろいだ気分で本当に素晴らしい日本料理を素敵な器でいただきました。和食がユニセフの無形文化遺産に登録されましたが、やはり素晴らしいと思いました。料理の一つ一つが丁寧な作りで、心がこもっていると感じます。そこにはストーリーがありました。皆で、そのストーリーを想像してみました。会話も大いに弾みました。料理に感激したのも束の間、ここ夢蔵は来年1月14日でランチ、ディナーをやめるとの事。それ以降は宿泊客だけの対応になるとの事でした。そこで、参加者全員の総意で、1月新年会もここで、最後のランチをいただくことになり、早速予約を取りました。限定ランチなので、取れるかどうか不安でしたが、何とか7名分の予約が取れました。

今年は、秋の活動が特に充実していました。こんにゃく作り、石鎚ふれあいの里の散策、松井先生の自然観察会は印象に残るものでした。よそから来た者にとって、愛媛の身近な自然は本当に得難いものだと思います。豊かな自然を今後も守り続けられたらと思います。(T. H)



姫路城とジャコウアゲハ

姫路駅に降り立った。進むほどに真っ白い天守閣が迫ってくる。白漆喰総塗り外観は五重の木造建築の構造、「白鷺城」の名にふさわしく世界遺産の輝きを放っている。大天守修理期間中のため城内の見学は西の丸百閒廊下（歴代城主と姫路城ゾーン・建造物文化財ゾーン・姫路城で幸せになった千姫ゾーン）のみとなったが、櫓・門・土塀・石垣・お城を囲む周辺の松、そして10月末の紅葉の調和が素晴らしく、足の痛いのも忘れ体中でその景観を楽しんだ。

ふと、石垣の色の違いに気が付いた。雨が当たるか否かによるとのこと。建物の屋根に当たる部分には全然樋がない。その下には細い溝を張り巡らせ雨水の排水路が出来ている。その水を溜め有効利用している様がわかる。今までそのようなことには目もくれずにいた。一度雨の降るお城も見てみたい。

見学に来ている小学生と出会った。軒瓦の説明を受けている。ちょっとだけ仲間にいれてもらった。軒瓦にも四半瓦にも蝶の絵が用いられている。何だかうれしくなってその後も注意していると、あちこちの軒瓦はもちろんのこと、なんとトイレの個室夫々にも陶板焼きの蝶、外堀を囲む石柱にも蝶・・・と、いくつも数えることができた。

姫路市の市蝶はジャコウアゲハだという。平成元年に市制100年のときに市蝶にジャコウアゲハを制定した。

姫路市のシンボル姫路城には、築城主池田輝政の家紋である揚羽蝶の瓦紋が多数用いられている。

市蝶ジャコウアゲハは揚羽蝶の仲間で姫路市とも多くの関係を持っている。450年前の話、「播州皿屋敷」のお菊井戸の由来による。ジャコウアゲハの幼虫は「お菊虫」と呼ばれ、蛹の形が後ろ手に縛られたお菊さんの姿のように見え、さらに口紅を付けたような赤い斑点があり、その形状からお菊さんの化身とされている。

そのお菊井戸を覗いてみた。その説明文は次のようなものだった。

『城内の上山里丸と呼ばれる広場にある「お菊井戸」が、有名な「播州皿屋敷」に出てくる井戸だといわれています。永正年間のこと、城主小寺則職の執権青山鉄山が城の乗っ取りを計画。これに気づいた忠臣の衣笠元信は、愛妾のお菊を青

のクーデターは成功。それでもお菊は青山家に残り、龍野に逃れた元信に情報を送っていましたが、ついに町坪弾四郎に気づかれてしまい、それを盾に結婚を迫られます。しかし、お菊はどうしても首を縦に振りません。腹を立てた弾四郎は家宝の皿 10 枚のうち 1 枚を隠し、お菊の不始末として責め殺して井戸に投げ込みました。それからというもの毎夜、「1 枚、2 枚…」と皿を数えるお菊の悲しげな声が井戸から聞こえるようになったといいます。その後、元信ら忠臣によって鉄山一味は滅ぼされ、お菊は「於菊大明神」として十二所神社の境内にあるお菊神社に祭られています。』

姫路市は「ジャコウアゲハが飛び交う街・姫路」をめざし南北 15m・東西 9m の食草ウマノスズクサ栽培試験農地を作り、また街路樹の歩道の植え込みや住宅地にも自生しているという。

私自身もジャコウアゲハの舞う団地をめざし数年前からウマノスズクサを育て、何人かに株分けして仲間を増やそうとしているが、狭い団地の庭では日あたりが悪く育ちにくい。12 月末現在ウマノスズクサは根が、蝶は蛹で（お菊さん状態）暖かくなるのを待っている。

9 月初旬、ジャコウアゲハに興味を持っているご夫婦が訪ねてくれた。その時幼虫を 1 個手渡した。それを京都の自宅まで大事に持ち帰ったところ羽化したと便りが届いた。

『嬉しいニュースです！　ジャコウアゲハが羽化し砂糖入れのケースの中に。今、新鮮な羽をピンとひろげ卓上の蛍光灯の傘にぶら下がって一夜。美しい羽ですね。ありがとう。その下に蜜を置いています。近くの子供たちにご紹介しましょう。』と。

その後ご夫婦は図書館や博物館でジャコウアゲハのことを調べて下さったそうだ。春になりウマノスズクサが芽吹いたら、川内にもあるご自宅で育ててもらうことを約束した。少しずつでもファンが増えてくれることが何より嬉しい。

(S.K)

京都の正月

中央図書館には京都コーナーがあり、諸分野に分類されこのタイトルで何か書こうとするや、すぐ様に名文美文がありそのまま拝借する方が格段に良い。

そこで、2006年2月発行の別冊太陽（平凡社）「京の歳時記今むかし」から、一部引用させてもらうことにした。（『　』の部分）

『四季の移ろいに従って暮らしが営まれる社会では一年が始まる正月に、火も水も生けるものすべて、新たに生命を得て再生される。最も重要なこの月を迎え、人々は祭祀をつくして去く年の厄災を祓い、新たな年の幸せを願う。』

日本の神事について語れる私では全くないが、より具体的に言えば正月はご先祖の神を迎える一年の区切りである。

『その準備は前の月師走より始まり、「事始め」「煤掃き」を終え、準備が整うと、譲葉と羊歯を交互に吊り、注連縄が張られる。正月様とも戯徳様とも呼ばれる先祖神は、京都の場合、盂蘭盆会と同様に、京の三方の山裾の「野」に迎えに行くべきで、門松は先祖神を野から家に迎える依り代なのである。都市化した京都では早くからその意識はなくなっている。』

『正月の三が日はハレの時間であるから、掃除・洗濯はもとより、日常生活から離れて別次元の生活を送らなければならない。晴れ着を着て晴れの食べ物を食するのである。そのためにはあらかじめ餅をつき、お節料理を準備する。一年間汲み足して使ってきた瓶の水をすべて捨て、年男が新しい水を汲む若水の習俗、又一年間使い続けた火を消して氏神から新しい火をいただいてくる習俗など、わが国の古くからの習わしがあった。京都の場合、八坂の祇園社に新しい火をもらいに行くおけら火が突出して著名であるが、その意味を知る人は少なくなった。』

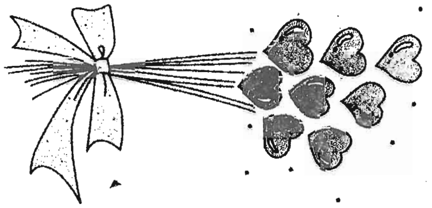
白朮火（をけらび）の闇うつくしき大路かな　　　鳥羽とほる

その火で煮た雑煮を食べると無病息災で過ごせると言う。京都の雑煮は白味噌仕立て。正月用にと特別の上品な味噌が売りに出される。丸白餅に人の頭になれと頭芋（親芋）、子孫繁栄を願う子芋、大地に根を張れと辛味大根。神仏に供えるには精進で昆布だしのみ。祝い用には花鰹をふりかけ「お祝いやす」と。北山では杉に、西陣では織機に雑煮を供えたという。汁椀は朱塗りが男用、黒塗りが女用と、しきたりを大事に守り続ける古き都。今日でも一部では、なおそうであるのかも。

大福茶についてもひと言。終い天神では、北野天満宮の梅林の梅が授けられ、昆布も入れて飲むようである。数多の神寺、地域により、各家庭により伝統為来りは様々である。

北野天神大服梅の遉（さすが）かな　　　飯島春子

(M.D)



いい人生を送るために

平均寿命まで残り少なくなりました。そこで、私なりに考えて稿を起こしました。

1．空想を楽しむ

宝くじが当たる。鬼籍に入った人が生き返る。ノーベル平和賞の候補になる。外国語がすらすらと話せる。自宅の庭から温泉がわき出る。その他　夢は無限

2．清潔にする

目クソ・鼻クソ・歯クソ・耳クソ・尻クソなどを除く。きたない人は嫌われる。

3．整理整頓に努める

断・捨・離で物の始末をする。残った品物は大切にする。整理整頓ができないのは、心と頭の整理整頓ができていない証拠。

4．喜怒哀楽ははっきり

一人言を言ったり笑ったり泣いたりは人間らしい感情。すぐに反応することが大事。過去の自分の自慢は控える。

5．教養を少しだけ高める

新聞・テレビ・ラジオ・文芸誌・歴史書・雑誌などで教養を高める。中でも一番のお勧めは古典。

6．健康に留意

毎日の食事と水分の補給に気を配る。歯は大切に 80・20 に心する。決して無理はしない。貝原益軒先生も著書で述べられている。

7．この駄文の読後は、できるものから実行してみる。思いついた日が吉日。明日はないかもと心得る。

お読み下さって有り難うございました。

(H・T)

我が家のノーベル賞は孫Ｍ

今、日本の大きな話題は、三人の物理学者へのノーベル賞授賞。LED 研究について中村修二氏は大洲市出身の方、同級生の思い出話によると、小・中・高校時代、数学、理科は百点だが、国語、社会、英語はあまり勉強しなかったそうだ。好きな教科は、どこまでも追求し、ある目標に向かってやり遂げる姿は今の日本の教育方法とは、異なっている。

文部省が中心になり学力テストで学校間を競わせ、高得点を取ればよしの人間教育には個性豊かな教育にはならないと思う。

我が家の孫は、勉強はあまり好きではなかったが、夢中になれる物があった。孫Ｍは２月生まれだったので小学校入学時は、クラスで一番小さく、勉強もついて行くのがやっとだった。学校が終わると、下に二人も弟がいたので、ジジ、ババの家に「ただいま」と帰って来ると、宿題もそこそこにプラレールを部屋中に敷きつめ、ミニ電車を何台も走らせ夢の国へ入って喜んでいた。一人で足りない事があると、私が助手になって、命令通りにスイッチをオンにしたりオフにしたり、遊び上手で創造力も凄かった。弟が幼稚園から帰って来ると電車の取り合いになり、大げんかになり二人で泣き出すと、仲裁はババさんが分け入り一件落着。こんな時には、ジジ、ババが見奈良から二人の孫を電車に乗せ、高浜までの往復が子守の場になる事もあった。電車大好きな二人は、運転手の近くで嬉しそうに外を眺め、飽きる事がなかった。

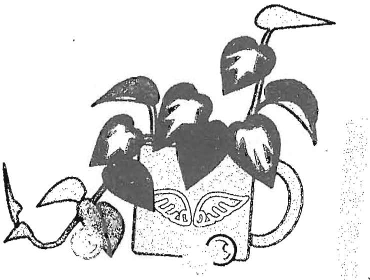
高学年になると、本物の電車に乗りひとり旅をする事が趣味になった。松山市内では物足りなく、乗り継ぎ切符を自分で買い求め、時刻表を引く事も出来る様になり日本全国を走り、益々電車に夢中になった。

高校生になると、交通への知識が増し、パソコンで路程を引き、チケットをいかに安く手に入れるか大変な勉強を１人で追求し、私の北海道旅行や、家族旅行にもおまかせになり、一挙両得の様な生活が当たり前になって来た。

そのうちに、自分の進路は交通関係と決め、高三で東京交通短期大学を一次でパス出来た。学校から通知があった時の喜びは、17 歳まで生きて来た中で最高の喜びの様だった。「めっちゃ嬉しい」を繰り返し、将来の夢が見えた思いだったのだろう。家族も幼い頃からの遊びからこれから生きる道を一人で勝ち得たので、「よかった、よかった」と拍手を送った。

今や世界は地球規模で動く時代であり、人も物も、より速くより多くより安く運ぶかの競争の中で生きて行く孫Ｍを思うと、これからの勉強には厳しいものがあると思う。

4月からは、東京で家族と離れ一人暮らしとなる。大好きな交通学を極めて、日本のどこかの地で、人々のお役に立つ仕事をするＭの姿を思うと、よくここまで一人で頑張ったと思う。Ｍにノーベル賞を与えたいババさんの気持ちである。ジジ様が天国で笑顔になっているのが見える様である。　(Sa・K)

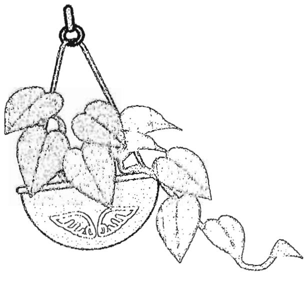


短歌十首

顔ながきバッタの眺む平野には何かあるかも三坂の峠
コナラの葉色づいて散り欅の葉枯れ葉となりてなおしがみつく
いま流行る豹柄の蝶(てふ)ためらいつスミレに寄りて子孫をのこす
われの居るところを感知温風(おんぷう)を送りつづけてオフにするまで
独居(ひとりい)の家におわすか炬燵にはなぜか朱い灯赤外線が
なぜかある炬燵の上に蜜柑だけぬくめるつもりつゆほどもなし
フジバカマあさぎまだらは長きひる済ませて南下まだまだつづく
ちかごろは「ア」の冠詞なき年賀あり賀状も減りてポツポツ寂し
孫五つ新年祝う飾り物求め街まで買い物に出る
初孫を連れてまちまで買い物に爺婆も初誇らしくもあり

追加
短歌＝歌草ども書き散らかせているばかりでお恥ずかしい限りですが…
生きていた証となれば　と自然との刹那刹那を記録出来ればいいなぁ～
(A・N)

雑感



今年もあっという間に終わろうとしています。

災害の多い一年でした。

広島県の土砂災害、紅葉シーズンまっただなかの御嶽山の突然の噴火、白馬村の地震、愛媛と徳島の県境での雪害、ゲリラ豪雨、スーパー台風、そして、師走の爆弾低気圧による大寒波、等々。

広島は我が家の故郷。白馬村役場には婚姻届を提出しました。徳島は幼い頃の何年間かを過した私の原点、愛媛は綾に移住するまでの 24 年 3 ヶ月余を過した我が家の第二の故郷です。それぞれに想い出深い大切な場所です。

此方に来てから、火山の噴火のニュースを聞く機会が多くなりました。

桜島は 2010 年以降毎年 1000 回前後の爆発的噴火が続いています。

2011 年 1 月 26 日、東日本大震災の 2 ヶ月前には宮崎県と鹿児島県の県境にある霧島連山の新燃岳が噴火。生まれて初めて空振、降灰を経験しました。現在も警戒レベル 2。立ち入りは規制されています。

今年 8 月には鹿児島県屋久島町口永良部島の新岳が噴火。

10 月には霧島連山の、硫黄山も警戒レベル 2 に引き上げられました。硫黄山はえびの高原にあり、県道 1 号線(えびのスカイライン)から直接登れる山で、韓国岳からの溶岩で形成された灰白色の無機質な山肌は、初めて見た時は死の世界を思わせるような不気味さに驚きました。初夏には紅色のミヤマキリシマが咲き乱れ、1 号線の反対側にある不動池の濃青緑色との対比は息をのむ美しさです。その道路も今は一部通行止めです。エコミュージアムセンターも閉鎖されていましたが、12 月 19 日噴火の際の避難所として営業が再開されました。

11 月には阿蘇山が噴火し、宮崎県の五ヶ瀬町でも降灰の影響を受けました。噴火活動は長期化すると見られています。90000 年前に起こったとされる、九州の広範囲を火砕流で埋め尽くし、降灰は遠く北海道までも到達するような、カルデラ噴火も心配されています。

日本ではカルデラ噴火の様な巨大噴火は 10000 年に 1 回程度起きるとされています。7300 年前、鹿児島県沖の海底火山の噴火が最後の巨大噴火でした。その時出来たのが鬼界カルデラです。海底で噴火した為、カルデラが出来る時津波が発生し、津波の高さは薩摩半島で 30 メートル、長崎県でも数メートルだったと見積もられ

ています。

カルデラ噴火は鹿児島県薩摩川内市にある九州電力、川内原発の再稼働に向けた審査の際にも注目されました。九州電力はカルデラ噴火の前兆が起きたら原子炉を止めるなど対処できると主張し、11 月 7 日、伊藤祐一郎鹿児島県知事も再稼働に同意し、年明けにも再稼働の見通しです。火山学者はカルデラ噴火の前兆の判断は無理だと厳しく批判していますが、その意見は容れられませんでした。再稼働に向けてのパブリックコメントに寄せられた多くの反対意見も、地元住民説明会での不安を訴える意見も活かされることは有りませんでした。

そして今、MOX 燃料を使うことでも不安視されている関西電力高浜原発も規制委員会の安全審査に合格し、来春以降、再稼働の見通しが濃厚です。

先日、北海道十勝岳の警戒レベルも 2 になりました。

全国の火山で監視と対策が強化されようとしています。

御嶽山の水蒸気爆発による悲惨な災害以降、今までより用心深くなっているのかもしれませんが、日本が火山列島であることは事実ですし、火山の噴火予知は地震よりは容易とは言え、非常に困難であるとのことですから、用心するに越したことはなさそうです。

日本百名山の大多数が火山であることを考えると、登山する時、事前に出来るだけ多くのの情報を集めておくことも必要だと思います。

我家が此方に移住した時、心配した叔父が紹介してくれた、石黒耀著「死都日本」を思い出します。

火山は素晴らしい景観や温泉など多くの恵みを与えてくれる一方、ひとたび噴火するとその破壊エネルギーの大きさは測り知れないものがあります。

今年から参加した町の教育委員会主催の生涯学習の講座と自治公民館の自主講座。ほぼ皆勤で続けています。

“綾の自然と文化を楽しむ”では、それぞれの季節に最も輝く場所を綾町照葉樹林文化推進専門監の河野先生と一緒に歩きます。

10月　刈り取られた棚田と、稲架掛け（はざか）が並ぶ光景を見ながらの散策でした。お日様の臭いのする美味しいお米になることでしょう。

綾の中でも一番里山らしい風景が残る地区です。自治公民館には四半的がありました。四半的は日南市飫肥地区で有名です。綾町にも薩摩の島津の影響があちこちに残っています。

紫のヤマハッカ、白いヒキオコシ、シラネセンキュウが花盛りでした。

法面には赤紫色のホトトギスが至る所に咲いていました。

実が美しいノブドウは不味いそうです。

キビの仲間のソルガムにはデンプン、タンパク質などの栄養素が総て含まれているとか。

クズは、根から葛粉、花は天婦羅、お茶、蔓はロープに。

クサギの若い葉は食用、熟した実は浅青色の染料にもなる。

赤い染料になるアカネ、黄八丈などを染める黄色の染料になるコブナグサなどが至る所にありました。雑草にしか見えない叢に宝物がいっぱいです。

綾の川原ではどこにでもあるツルヨシはヘドロが溜まっていない所にしか生息できない。綾の川原が綺麗な証し。

人間の農耕作業のサイクルに合わせて入り込んでくる雑草、コミカンソウには柄が無く、ヒメミカンソウには柄が有る。農耕をやめればヒメミカンソウやコミカンソウは生えない、と伺い、我が家の畑でも最近よく見掛けるので、我が家の畑も耕作していることをコミカンソウ達が認めてくれたのかしら、と少し嬉しくなりました。

アケビの実は表面が滑らかで、ミツバアケビはザラツイテいる。アケビの皮の天婦羅は美味。早速、近所で頂いたアケビの種の周りの甘い部分を味わった後、赤紫の皮を剥いて白い部分を天婦羅にしてみました。少しほろ苦くて絶品でした。直売所でも売っていましたのでその後度々我が家の食卓に上るようになりました。

絶滅が危惧されているマルバテイショウソウはまだ花は咲いていませんでした。パソコンで調べるととても可憐な花です。花の時期に来たいと思いました。地理音痴の私には行きつけそうにないのが残念です。

田を縁どるようにサクラタデ、アキノウナギツカミ、ミゾソバの薄紅色の花々の饗宴の中に混じって白いイボクサが可憐でした。

アサギマダラが小さなアザミの蜜を吸っていました。南への長旅に備えて栄養補給でしょう。

タテハモドキの食草であるオギノツメも沢山ありました。

薄暗い栗林ではクロコノマチョウが、明るい庭先ではサカハチチョウが楽しそうでした。先生はルリタテハにも出逢ったとおっしゃっていましたが残念ながら私は出逢えませんでした。

可愛い薄紫のベルのようなサイヨウシャジンも忘れられません。

11月　綾南川上流近くを歩きました。

今は使われていないキャンプ場跡で、マツカゼソウが小さな白い花を風にそよがせていました。マツカゼソウは鹿の嫌う臭いが有るため、今は人のいないキャンプ場周辺を鹿から守る管理人だそうです。電気や水道が無い為でしょうか、立派なキャビンが有るのに放置されて勿体無いことです。

炭焼き窯跡を見ながら、小さな吊橋を渡り、先生が“綾ブルー”と呼ぶ、青緑色の川面の深い色合いを楽しみながら、進んでいく途中、湿った遊歩道の端、法面との境辺りで先生の説明に皆が覗きこんでいます。遅れて着いたので、尋ねると、キッコウハグマ、とのことです。東温市の方のブログ“野草録”でもお馴染みの花です。先月、花を見ることが出来なかったマルバテイショウソウとよく似た花で、同じ仲間です。こんなに小さいとは‼。キッコウハグマ⁉と尋ねる声が思わず、高く大きく裏返っていました。1 cmにも満たない花でした。細くて白い花弁の先が外側にカールして、淡紅色の蕊を抱く姿は、小さいながらも存在感は充分でした。教わってからは足許のそこここに沢山咲いているのを見つけることが出来ました。

絶滅危惧種の腐生多年草キリシマシャクジョウにいたっては米粒位の小さな花でした。紙風船のような白い花の先端の黄色の縁取りが素敵なアクセントです。

湿った落ち葉の下からは青黒く光る躰をくねらせてシーボルトミミズも出てきました。

数十年前まで住んでいた方のお家の跡があります。今は丈高い木々の影になっていますが、住んでおられた頃、木は炭、薪、楮木として、と、利用されていたため、家の周りを開墾した田畑は日当たりが良く、肥沃で、綾でも屈指の湧水群から水をひき、川ではウナギ、鮎などが豊富に捕れ、ツバキなどから搾った油は食用や灯り用にと、購入するものは乾電池位だったそうです。

電気も水道も無い暮らしは、山や川を知り尽くし程良く利用する、豊かで力強い、知恵にあふれた日々であったことが想像できます。

さらに進み、愈々湧水群のある川原に降りますが、脚が弱いだけでなく高所恐怖症の気のある私は、下を見ただけでクラクラするので、暫し留守番です。皆が戻ってくるまでの 30 分近く法面を覆う苔に結んでは滴る露の美しさ、木々の間から垣間見える川の飛沫、それぞれに違う樹肌の模様を見ていると飽きることは有りませんでした。

キャンプ場跡の近くには、照葉樹やドングリの仲間の多い綾には珍しいイロハモミジの大木が鮮やかに色付いていました。その傍には幹に無数の鋭い棘を持つヤマ

ナシが拳大のざらついた茶色の実を付けていました。サルナシはキウイの仲間で美味しいそうですが、ヤマナシは食べるところが少なく酸っぱいそうです。
サルナシもヤマナシも以前“くらしの学習会”の仲間から話を聞き、本やパソコンでは見ていましたが、今、そのヤマナシが現実に目の前にある。感動です。暫く木を見上げていました。ヤットアエマシタネ。

幻想的で少し哀しい宮澤賢治の童話を教えてくれたのも彼女でした。

12月の講座は道が険しく私の脚力では無理だと言うことで、残念ながら欠席しました。

自主講座の体幹トレーニング、ストレッチを頑張って少しでも、筋力をつけたいと思っています。毎年、同じ月に同じ場所を歩くとのことですから、いつの日か11月の湧水群、12月のトレッキングコースに参加できる様になれることを夢見る毎日です。

もう一つの講座、書道は、なかなか素直な字が書けませんが、筆に墨を含ませ半紙に向かうと落ち着き、気持ちが優しくなるので、続けようと思っています。88歳と93歳の方達の無欲で清々しい書を拝見できるだけでも、楽しい時間です。

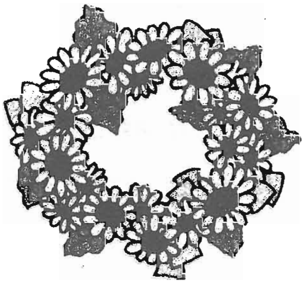
14日、第47回衆議院議員総選挙が行われました。
報道機関の予想通り、与党の圧勝でした。消費税増税時期延期に関して民意を問う選挙、との解散説明でしたが、今後の日本の姿を決める選挙になってしまったように思えます。多分、この選挙結果を踏まえて、憲法改定にも、集団的自衛権容認にも、特定秘密保護法にも、原発再稼働にも、議員定数削減に関しても、1票の格差についても、与党に絶対的信任を与えた、ということになるのでしょう。恐怖を感じます。でも、それが、真の民意であるなら、従うしかありません。

両親の、いわゆる13回忌の年でした。私にとって両親を見送った日は毎年特別な日で、今年が特別という想いは有りませんので、生前、親しくして頂いたお寺に例年同様の供養をお願いし、自宅で、父や母を思い出しながら普段通り過ごしました。ご住職様の奥様との思い出話にホッコリ温かい気持ちにさせて頂きました。最近、漸く、想い出として、両親を懐かしく振り返ることが出来る様になってきました。

裏の木立では、毎日、沢山の鳥たちが賑やかです。イカルの囀りはひときわ美し

く響き渡ります。ヒーツキホーシー。今日も聞こえます。

一人一人が幸せを実感できる年になります様に。　　　(K.O.)



忘年会に思う

12月19日、日本語教育グループの勉強会で日頃いろいろな話をしている仲間との忘年会でした。会場はハノイ・カフェ、ベトナム料理のお店でした。

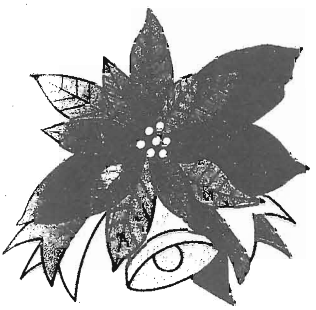
数年前ベトナム・ハノイへ仲間と旅行で行ったことがあり、その時も料理が本当においしいと思いましたが、今回も裏切られませんでした。本当においしかったです。蛇足ですが、ベトナム旅行の時に訪れたハノイ近郊のバッチャン焼の小物がトイレに飾ってあるのを見て感激しました。

仲間との楽しいおしゃべり、おいしい料理にお酒、こんな機会がもてる今に本当に感謝したいと思います。今、このときをいかに生きるか。老いの問題、今後の様々な不安、子どもたちの今後への心配、個人的にはいろいろありますが、今現に健康で楽しい時間が持てていることにこの上なく幸せを感じます。限りある生をいかに生きるか、今から考えておきたいと思います。

ベトナムといえば、数年前行ったとき、愛媛大学に留学していた人のお宅に招待されましたが、その時中学生だった娘さんが、今明治大学の学生で、先日大学のスピーチ大会で優勝したと聞きました。日本にいるときその子は小学生でした。でも、数年前に会ったとき、ちゃんとまだ日本語で話せていて驚きました。子供のころ身につけた日本語が、彼女の一生に大きな影響を与えているのだろうと思いました。

最近はＳＮＳで帰国後の元留学生たちの動向を簡単に知ることができるようになりました。会わなくても彼らが今どうしているかがわかるようになったというわけです。ＳＮＳには問題もありますが、うまく利用できれば、本当に便利なものだと思います。振り回されず、自分の立ち位置をしっかりさせて、主体的に利用できたらと思います。

忘年会の席で、次から次へとさまざまなことが頭を巡り、あっという間に時間も過ぎ、お開きとなりました。　　　(T・H)



お知らせ

・総会のお知らせ

総会は、1月6日(火)午前11時半～ 道後夢蔵で行います。2014年度会計報告、活動報告、2015年度活動計画など話し合います。

また、総会終了後1月14日をもってランチ・ディナーなどをやめると言う夢蔵の最後のランチを忘年会で楽しみます。

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。 活動会員　2000円/年　購読会員　1000円/年 振込先口座番号（郵便局）　くらしの学習会　01610―5-21026 問い合わせ先　TEL/FAX　089―964-6956（林） E-mail: kt-hayashi@nifty.com

編集後記

87号で書いたマレーシアの結婚式に出た話の後日談です。日本からの参加者5人結婚祝いとして日本円でお祝いをご祝儀袋に包んで出しました（新郎は高知で新婚生活を送るため）。新郎のお母さまが感激してくださったようで、お礼に5人にマレーシアの華やかな民族衣装をそれぞれプレゼントしてくださいました。8月の結婚式以来、その余韻に浸っていましたが、このことで、第二弾5人で写真を撮ってお母様に送ろうという話になりました。10月末高知からの4人を我が家に迎え、5人そろっての写真撮影となり大いに盛り上がりました。もちろんお酒好きが再会したのですから、お酒、料理の大宴会つきです。お陰様で今年は本当に楽しく実り多い年となりました。この幸せが来年も続きますように。読者の皆さんのご健康、ご多幸を心よりお祈りしております。

（T・H）